

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000245		
法人名	(株)フレンド		
事業所名	グループホームフレンド東大阪 1階		
所在地	大阪府東大阪市小若江4-6-7		
自己評価作成日	平成29年3月10日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2795000245-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年4月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとの行事を大切に、目いっぱい力を注いでいます。
特に、「夏祭り」は、オープン時より5年継続して開催し、他の家族様達とも 顔を合わせたくさんの参加を毎年頂いています。
行事を開催する事で四季を感じて頂ける努力をしている
もう一つ自立支援医療を申請する事により阪本病院ふきのとうで行われているディケアに参加させて頂ける様になった事が大きなアピールポイントだと思う

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、利用者や家族、職員がコミュニケーションを取りながら、一人ひとりがその人らしく暮らすためにはどのように支援するかを考えて日々のケアに取り組んでいます。利用者が書道の講師となり書道教室を開催することもあるなど、利用者ができる力を引き出せるような関わりを大切にしています。また、終末期ケアも経験し利用者や家族の思いにそって支援を行っており、重度化した場合には出来るだけ寄り添い希望に応えられる様に往診医や訪問看護師との関係を築き、研修会などに繋げ学ぶ機会を作るなど環境を整えています。また、地域の自治会の再編もあり自治会の会合に参加したり、運営推進会議で夏祭り等の地域との関わりについて相談するなど、地域に根差した事業所となるよう日々取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を軸にして個々の理念を作成し取り組んでいる	法人の理念を事業所の理念としフロアーに掲示しており、年間職員教育計画の中にも理念について説明する機会を作っています。また、フロアーによって各自の目標を掲示し意識しながら実践に取り組んでいます。職員も定着しているため、理念について話し合える環境を整え独自の理念の作成も考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の回覧を持参してご挨拶する事から始まり町会の行事にしっかり参加していきたい	現在自治会の地域の編成時期でもあり、会議に出席することで事業所の事を知ってもらえるような働き掛けを行っています。近隣の小学校の運動会には招待を受け利用者と共に見学に行っています。事業所前の清掃時や利用者が散歩に出かけた際には、近隣の方と挨拶を交わす等、さらに地域との繋がりを深めたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会議に参加して地域との繋がりとグループホームを認知して頂ける機会を増やす努力をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括の方に他のグループホームに情報を提供してもらい、より良いサービスに向けた取組を提案して頂いている	運営推進会議は利用者や家族、自治会会長や地域包括支援センター担当者等の参加を得て2カ月に1度テーマを決め開催されています。利用状況や職員関係、活動報告や今後の予定、前回の会議内容を報告し意見交換を行い、夏祭りの相談や提案をもらい実践に繋げたり、新人研修についての協力を申し出てもらえる等、運営に活かすと共に地域と事業所の情報交換の場となっています。	会議の内容や議題など検討した内容や取り組みを議事録を作成して参加できなかった方や家族に報告してはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は実情とれていない協力関係を築いていく努力をする	具体的な問題点や制度上の分からない事や様々な手続き等は、法人本部より市の担当者に相談しています。市主催の研修が1年に2回ありその際には出席できる職員が参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実施しスタッフ間での理解の統一に至り当施設において身体拘束をなくす事が出来たが、玄関の施錠についての統一はまだまだである	身体拘束に関しては年に1回の勉強会があり、身体拘束について基本的な事も含め説明したり、市主催での研修に参加した職員により伝達研修で学んでいます。日々のケアにおいて不適切な対応があれば職員同士で注意をしたり、個別に指導を行っています。出入口は施錠していますが、外に行きたい様子が見られた場合は職員が付き添ったり見守りながら外気浴や散歩を支援しています。	

グループホームフレンド東大阪(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で虐待防止についてスタッフ間での理解度の違いを確認する事が出来た。少しずつでも虐待防止の理解を深めるよう努める		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の何人かは、自立支援を利用されていたり、後見人がおられる方がいるためその都度制度についての学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様や御本人様にはしっかり説明と納得を頂き疑問点など気になる事があれば、随時対応させて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様のご意見、要望をしっかりと聴き対応がスムーズに運ぶ様努力している	毎月の便り「フレンド便り」を送り利用者の様子などを伝えて、家族の面会時や電話で直接意見を聞いたり、介護計画の更新時には意見や要望を聞いています。また、面会ノートの備考欄に意見を記載する方もいます。個別のケアに対する要望等が多く、速やかに対応するように取り組んでいます。また利用者の意見や要望は日々支援する中で聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の勤務中において職員と常に話す機会を持ち、意見をとりまとめ定例会議の場で検討を行い改善、対策を行っている	日々の業務の中や申し送りで職員や各担当者からの意見や企画、提案が出されています。意見によっては本社に挙げて検討し、職場環境の改善に反映しています。悩みを抱えている職員には管理者が個別に面接を行い、感じた事が発言できる環境作りに努めています。	個別に職員から意見を聞いていますが、職員間で話し合う全体の会議を持つ機会を作られては如何でしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者、職員よりヒヤリングを実施勤務状況における課題、問題点を把握し適宜整備を行う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内における教育研修担当者を配置管理者、職員のスキル向上を目指すまた、社員教育支援制度を制定資格取得の支援を行う		

グループホームフレンド東大阪(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ5施設での交流を行いケーススタディ等の検討会を実施 全職員のサービス向上に努める		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にご本人様の声をしっかり聴いて安心感を持って頂き、特別な絆を感じて安心を届ける関係作りを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が感じている事や困っておられる事など傾聴し一緒に痛みや喜びを分かち合える関係作りを目指している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なにが必要か優先順位を相談しながらご本人様や家族様と一緒に見極めサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事を見極め生活の中での役割を大切に暮らしを共にする者として喜びや悲しみを分かち合える関係を築く努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係が支援する者にとっては大切であり御本人との絆が太い物になる様共に支えていくことを重要と考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の了解のもといついかなる時も拒むことなく面会に来て頂き馴染みの関係の継続に努めている	家族以外にも友人の面会があり、居室に案内しお茶や椅子を準備するなどゆっくり過ごせるように支援しています。中には一緒に外出し喫茶店に行く方もいます。また、家族の協力の下自宅に戻ったり、墓参りに出かける方や正月には外泊する方もおり、その際には準備などの支援を行っています。手紙や年賀状のやり取りに関しても支援を行い、これまでの関係継続に努めています。	

グループホームフレンド東大阪(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共有する仲間がいる事を理解し関わり、支えあえる関係になる様支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設での契約終了は亡くなる事が全てのため中々関係の継続はないことが多い		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意思を尊重しながらも、グループホームであるが故、困難な時もあり、時として希望に添えない時もある	入居前に面談し本人や家族の希望と身心の状況等の情報を得たり今まで関わっていた事業所や以前のケアマネジャーからも情報を得て意向を把握しています。入居後は利用者の出来る事や出来ない事、新たに得た情報や意向、心情などを日々のケアを通して汲み取り、記録に残しカンファレンスを行い職員間で共通認識を持てるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のケースについては、入所時にしっかり把握しスタッフと共有しサービスに繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中での心の変化を把握しご本人の心の状態の様子を観察しプランに生かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームでのケアプラン作成はとてつもない計画もなく現状維持が中心で、家族様や本人の希望を入れて作成する事は少ない私達の気づきの中からより良いプランが出る事もある	利用者や家族の意向に添った介護計画を作成しています。状況に変化がなければ3ヶ月毎にモニタリングを行いサービス内容を見直して家族に説明を行っています。サービス担当者会議は介護保険認定更新前に行い計画の見直しを行っています。見直しに当たっては本人や家族、医師、看護師の意見を改めて聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気づきや工夫で得た情報を共有し介護計画に生かしている		

グループホームフレンド東大阪(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ディケアの参加が大きく介護計画に変化を与える 家族様の支援のない方も気晴らしにディケアに行くだけで外出した気分を味わう事が出来、たくさんの人達とふれ合う事ができる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自立支援医療によるディケアの参加により地域の資源を存分活用させて頂いている グループホーム以上の専門職がサービスに関わって頂く事で利用者様の違った面も発見出来る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は、入所と同時になくなるが、往診が軸となり検査や緊急時の対応もしっかり満足して頂いている	入居時にかかりつけ医の継続や往診医について説明しています。協力医の往診は月に2回あり、夜間や緊急時には24時間連絡が取れ相談が出る体制を構築しています。また週に1回、訪問看護師による健康管理が行われ情報を共有しています。他の医療機関の受診は職員が同行することもあり家族には電話やメールで結果を報告しています。希望や必要に応じて訪問歯科による口腔ケアや治療を受けてます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも不安や疑問を感じたら、連絡を入れアドバイスを頂いたり、適切な受診を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携との情報交換は入院時に欠かさず対応するように心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年より看取り介護の連携が出来最後のあり方について早い段階での家族との話し合いで十分な説明と方針を共有しチームで取り組んでいく事になった	入居時に重度化に向けての受け入れについての説明を行い、常時医療が必要となれば対応できないことや状況により事業所でできる事等を理解してもらっています。重度になった場合には医師と家族、事業所の三者で話し合っています。家族も宿泊可能で協力を得て看取りの経験もあり、利用者個々の状況に合わせた方針やケアの方法を検討し情報を共有し、出来る限り本人と家族の意向に添える様に支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルにて職員はどう対処すべきかの判断は、周知している。		

グループホームフレンド東大阪(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しての対応はしっかり避難訓練等により身に付けているが、地震、水害の対策は避難所はどこか把握している程度のため避難訓練を重ねる事でしっかり身につけたい	消防署の指導のもと、屋間の火災を設定した訓練を年に1回行っています。通報から初期消火、非常階段を使った避難訓練も含め利用者と一緒に実施しています。訓練時には地域の方に案内をしたり、運営推進会議でも報告を行っています。また、水の備蓄や防災セットの準備があります。	年に2回は屋間と夜間を想定した訓練を行い災害訓練が定着されることを期待します
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりにあった声かけや支援を実施している	入職時には接遇マナー研修を行っています。基本的には優しく対応で親しみのある言葉遣いを心がけ、本人が理解できる声掛けを行い、威圧的な言葉や本人が嫌がる言葉は使わないように指導しています。不適切な対応を行っている場合はその都度職員間でも注意をし合えるように取り組んでいます。特に排泄時の声掛けは細心の注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い本人の声を聴くよう心掛けている 自己決定出来る様、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間や食事の時間など本人の意思とそぐわない時もありそんなときはしっかり理解して頂くよう説明し納得頂く		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めなどされている入居者様には、意思確認をして毛染めのお手伝いを定期的にさせていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事の準備や片付けなど積極的に参加して頂いている	業者より出来上がった食事が届き利用者には盛り付けや配膳、後片付け等の出来る事に携わってもらっています。利用者の誕生日には希望の献立を聞き、食材を買いに行き食事を作って提供しています。職員も同じテーブルで見守りながら一緒に食事を摂っています。定期的に外食に行ったり、手作りのおやつや寿司作りを利用者と共に行い食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難な方には起床時の一杯をしっかり摂取して頂き、一人ひとりに合わせた食事形態や栄養バランスを心がけている		

グループホームフレンド東大阪(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアや1週間に1回の歯科医、衛生士による口腔ケアも充実している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しし介助しているが、年々認知機能低下によりパターンがくずれ	排泄チェック表を利用して個々のタイミングでトイレに行けるように声をかけることで失敗が少なくなるよう支援しています。トイレでの排泄を基本とし、パッドやおむつなどの排泄用品の種類や支援方法を話し合い情報を共有する事で自立に向かうように取り組んでいます。排泄が自立している方には現状が維持出来る様に支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤をなるべく使用せず水分や整腸剤などの服薬により「排便を促す支援をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ディケアにいく為に入浴日が決まってしまう事が多くなり仕方なく都合通りに決定する事がある	入浴時には週に2回利用者の希望を聞き体調に合わせて対応し、入浴を拒む方にはタイミングやその方に合わせた声かけを工夫しています。身体状況により、二人介助も行い安全に入れるよう支援しています。好みのシャンプーやリンスを用いたり、一人での入浴を希望する方がおり見守りを行うなど一人ひとりのペースでゆっくりと入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングで就寝される 下肢の冷たい方には足浴をする等、支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬について薬剤師に相談したり、副作用についても理解し症状の変化も常に観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割に合わせた家事や楽しみにしている事などそれぞれに合わせた支援を心がけている		

グループホームフレンド東大阪(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った外出は難しいがその中でも出来るだけ散歩や外出にお連れするよう努力している	天候と体調に合わせて事業所の周りを散歩したり、近隣の大学まで行ったり、買い物兼ねた散歩に出かけています。また、外気浴や花の水やり、ごみ出し等にも一緒に行き日常的に外気に触れる機会を作っています。季節の行事では、初詣や花見を計画し外出しています。また、家族の協力の下馴染みの場所に出かけたり、定期的な外食に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本個人の、お金の扱いはして頂く事はなく代行や同行でのお金のやりとりはお願いする事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代わりに電話をかけ本人にお話しをしてもらったり書いた手紙を郵送する支援はしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりも良く、静かな施設でありフロアも広く利用出来る様ソファの配置も工夫して季節感を感じて頂ける様スタッフが空間作りの日々奮闘している	共有空間には季節の飾り付けや手作りの作品が飾られ、ユニット毎で生活している方に合わせた環境を整えています。毎日換気と掃除を行い清潔な環境を保てるように心がけ、空気清浄機や加湿器を設置し温湿度にも留意しています。テーブルやイスの配置についても好きな場所で自由に過ごせるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3個様々な用途を考え配置転換して車椅子の方も1日に1度は座って頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様それぞれ、使い慣れた思いでの家具などお持ち頂いている	入居時に本人が今まで使用していたものを持ってきてもらうよう伝え、筆筒やテーブル、椅子やテレビ、大切な仏壇など馴染みの物を持って来てもらい家族と相談しながら生活しやすいように配置しています。家族の写真を飾ったり、趣味の習字道具やテレビゲームで楽しむ方もおり、その人らしい居室となっています。また希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉には表札がありわかりやすい目印を随所にはって出来る事、わかる事を支援している		